

原発あかん・橋下いらん・弾圧やめて!

5・22 金時鐘講演会

戦前回帰の時代に抗う詩人の魂



2016
5月22日(日) 開場12:00
終了17:30

※第1部と第2部の途中に30分の休憩と喫茶軽食(実費)あり。開場後1時間と終演後30分間は、会場とロビーでご自由に交流なさってください。

大阪市立
生野区民センターホール



大阪市生野区勝山北3-13-30
JR環状線「桃谷」駅下車 徒歩15分

同時開催

未来のための歴史パネル展



第1部

13:00~14:30



スタンダップ・コメディ ナオユキ

◎他、各戦線と関いの
アピール、福島報告、
等々。



原発事故特別報告 おしどりケン・マコ



辺野古現地レポート 川口真由美



鎮魂の舞「サルブリ・チュム」 金君姫

第2部 15:00~17:00

金時鐘さん「お話」



聞き手
パギヤン
金洪仙



■入場料は徴収しません。
事前に「参加協力券 ¥1,000」を
お買い求め下さい。
(申込方法は裏面に。)

■主催・問い合わせ

実行委員会/コラボ玉造 [TAMAZO] 気付け



〒543-0013 大阪市天王寺区玉造本町 8-18 酒井ビルI 203号室
T&F 06-6763-0211 / メール tamazo@fanto.org

■後援

(財)ワンコリア・フェスティバル
新聞 うずみ火
抗路舎
在日本済州四三事件犠牲者遺族会
済州島四三事件を考える会・大阪

フクシマと結ぶ 音の力 いのちの言葉 (vol.9)

「5年経った」ではありません。

原発事故が「始まって5年目」 です!

「素朴さ」について — 詩を書く者として思うこと —

金時鐘

■ 詩を生きることの素朴さ

社会変動を指してよく言われる「歴史の曲がり角」とは、のちの世の識者たちが振り返って思いみる時代区分の抽象的な言いだが、安保法制関連法案を強行採決させてしまった目下の私たち、平和憲法下で暮らしてきた日本の国民や住民たちは、抽象でも観念でもなく実感をもってまざまざと、戦後の日本が戦前回帰へ向け急カーブを切った折れ曲がっている状態を目のあたりにしている。

ノアの洪水を思わせた東日本大震災のときもその思いをつよくしたもののだが、現代詩と言われてきた日本のこれまでの詩の在りようはいよいよもって、破綻を余儀なくされている感がある。観念的な思念の言語、他者とはあくまでも兼ね合うことがない、至ってワタクシ的な自己の内部言語、そのような詩が書かれるいわれが根底からひっくり返ってしまったのだ。

人知の驕りをもひっぺがして余りあった東日本大震災を経て、とみに考えさせられていることは詩を生きることの素朴さについてである。「素朴さは詩人の単なる条件ではなく、詩人が詩人であるための『理論』である」とは、大先達の詩人小野十三郎の『詩論』のなかの言葉であった。私は簡明に演繹して、その素朴さとはいささかのひげらかしもない思考の表出だと思っている。

日本の現代詩が長い間、読者を上げられないまま押し込められていったのは、インテリでなくてはならないかのような、知的思念をひげらかしたその虚飾性にある。自分の知識をひげらかすところからは実感は生じない。私にはこの実感の形象こそリアリズムである。

■ 飾ることから自らを律する意志力

ポール・ヴァレリーといえば年月はたしかに前世紀の詩人に押しやっではいるが、詩人の思想や言い分を果物の栄養価にたとえて「作品の中にかくされていなくてはならない」と言った彼の詩論は、今もって衰えを見ない。リンゴならリンゴの栄養価というものは果肉の中に分解してかくされているものである。人はいちいち栄養価を算出して食べているのではなく、それが「リンゴ」であるから食べているのである。詩における詩人の思想とその働きもまた、そのようなものだと言っているのだ。

詩の内容や様式を大衆からかけ離れたところで観念化複雑化させてしまうのではなく、自分もまたその他多勢のなかの一人であることを自覚し、その「大衆」に詩がにじり寄り、詩を詩本来の単純さに高めていくためにはひげらかすことの一切を取り払うだけの素朴さが、詩人の資質として回復されてこなくてはならないと改めて思うのである。

飾ることや当てこむことや、権威、時流になびくことから自らを律することができる意志力があって、素朴さは発揮される。複雑さが単純化されるのは、その素朴さがあることだ。日本の短詩型文学をひたすら席捲している短歌、俳句に詩が拮抗するためにも、素朴な資質と詩の単純化は、現代詩に関わる者の急務の関心事であらねばならない。

大震災以後の、そして安保法制法案がまかり通りはじめている日本の現状に即して、詩人もまた戦前回帰の時代風潮に逆らう、意志的な参与者であらねばならないとつよく思うのだ。(キム・シジョン/詩人)
【藤原書店『機』(2016.2号)より全引用】

福島原発事故は5年間ずーっと続いている!

おしどりマコ

……「原発事故から5年」とよく言うでしょう。これは過去のことにしてみたいで私の嫌いな表現。正しくは「原発事故が始まって5年」です。国際原子力評価尺度 (INES)* でいっても「レベル7」**が継続中。まだ福島第一原発から今も毎時数百万ベクレルは放射能を放出しているからね。このことを私は原子力安全・保安院 (事故当時) にも原子力規制庁にも確認しました。まだ全然終わってない。そのことを知ってください。

* 原発など原子力施設の事故やトラブルを評価する世界共通の尺度。国際原子力機構 (IAEA) と経済協力開発機構原子力機関 (OECD/NEA) が制定した。

** 放射性物質の重大な外部放出が起こっている状態。

【『DAYS JAPAN』(2016.3号)より引用】

「5・22」実行委員会では、賛同団体、賛同人を広く募っています。

趣旨に賛同される方は下記①と同じ方法でご連絡下さい。

お申し込み方法
参加協力券

① 下記のいずれかの方法で、住所・氏名・電話番号と、必ず枚数をお知らせ下さい。

[振り込み用紙] 同封でお送りします。

電話 080-3119-7074 (Soft Bank)

Fax 06-6763-0211

メール tamazo@fanto.org

「コラボ玉造」まで 葉書 か 封書

② 郵便振替口座に「5・22 参加協力券〇枚希望」とお書きになってご送金下さい。一枚につき、¥1,000です。入金が確認され次第、ご指定の住所・氏名まで郵送いたします。

【口座番号】 00940-5-312873

【加入者名】 企画・出版 黄土 (ファント)

※事務処理の関係上、お振り込みの締切は5月16日(月)とさせていただきます。それ以降は、電話・ファックス・メールでお申し込み下さい。